

指定管理者制度導入施設の管理運営検証結果【検証シート】

		管理No.	
施設の名称	山形県産業科学館	指定管理者	山形県産業科学館共同管理者
所在地	山形市城南町1-1-1 霞城セントラル内	県担当課	山形県産業労働部 産業技術イノベーション課
指定期間	令和3年4月1日～令和6年3月31日	(電話番号)	(023-630-2192)
検証期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日		

検証項目	指定管理者による自己検証	県(施設所管課)による評価・検証	
1 仕様書等に沿った管理・運營業務の履行状況			
① 管理・運營業務の履行状況	5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ5類に位置付けられ、感染者数の動向を注視しながら制限していた活動を徐々にコロナ前に戻し、少なくなっていた来館者数をコロナ前に戻すことに努めました。結果としては、コロナ前(平成30年度)22万6千人あった来館者数(感染対策で令和2年度3万4千人、令和3年度4万5千人、令和4年度7万7千人)を、18万1千人まで回復させることができました。この数字は、コロナ前に年約1万人減少傾向にあったことを考えれば評価できる数字と考えています。包括協定で年間開館日数の3分の1以上の日数で実施することとされているイベント・ワークショップの実施日数も110日となり、達成することができました。また、月1回定期的に県・館・指定管理者の情報交換会を開催し、情報共有に努めました。	評価	<評価の理由> ・仕様書及び事業計画に沿った適切な管理運営が行われている。 ・感染対策を継続しながら、イベント等を積極的に開催し、コロナ前に近い水準まで来館者数を回復させた。
② 管理・運営上の課題、問題点(改善すべきこと)	引き続き、来館者数をコロナ禍前に戻していくことが重要と考えています。但し、当面、職員の感染対策を継続しながら感染症の推移を注視し、県と意思疎通をはかりながら、適切な館の運営に努めていきます。コロナ禍をきっかけに登録を取り下げるボランティアが増え、登録者が少なくなっています。今後、新規登録者の募集を行っていきます。	<課題等の原因分析> ・コロナが5類に移行したことで来館者数も大きく増大したが、今後も職員の安全確保や来館者が安心して利用できる環境づくりを重視する必要がある。 ・コロナ禍以降、遠方から鉄道等の公共交通機関を利用して勤務していたボランティアが登録を取り下げるケースが見られる。	
課題、問題点への今後の対応	・来館者や職員の安全を第一に考えた上で、イベント等を開催し、来館者数が増えるよう取り組んでいく必要がある。 ・ボランティアの新規登録の募集及び研修を行い、来館者に対し常時適切に館内を案内できる体制を作る必要がある。		
2 利用者からの要望等への対応			
① 意見・要望等及びその対応状況	2月に来館者にアンケートを実施しました。 ・職員の対応と展示物の清潔感は、どちらも「良い、はい」と「ふつう」を合わせると100%で、良い評価をいただけたと考えています。 ・休館日は「今のままで良い」が99%、開館時間は「今のままで良い」が93%で、現段階で変更の必要はないと考えています ・今後、充実を希望する展示分野は複数回答で、宇宙が一番多く、ロボット、災害(津波・火山)と続いています。昨年度、リースアイテムで宇宙関連のアイテム(スウィングバイ)が導入されたので、それと合わせた展示や、関係団体等との連携によるイベントや企画展示等で充実を図りたいと考えています。 また、令和5年度において苦情等の受付はありませんでした。	評価	<評価の理由> ・来館者にアンケートを実施し、利用者の意見・要望等の把握に努めており、肯定的な評価を得ている。
意見・要望等への今後の対応	今後も来館者へのアンケートを基に、ニーズを的確に把握し、モノづくり企業や関係団体との連携を図りながら、サービスの向上に努めていく必要がある。		
3 指定管理者制度活用の効果			
① サービスの向上	イベント等において、新型コロナウイルス感染症の影響が残る団体や企業の出展が伸び悩む中、自ら企画した展示(SDGsや郷土の偉人)や県内教育機関と連携した展示に勤めました。	評価	<評価の理由> ・他機関と連携し、これまでにない企画事業を実施する等、来館者を飽きさせないよう努めている。
② 経費の節減	節電や節水に努めるとともに、令和4年度下期に行った4階照明器具29灯のLED化等で電気使用量を前年度比1.5%削減し、また、トイレ便器の押棒交換等で水使用量を9.9%削減しました。あわせて、コピー用紙の使用量を9.9%削減しました。	評価	<評価の理由> ・夏の猛暑等により電気需要が増加する中、適切な設備更新を行う等、経費の削減に努めている。
③ その他(地域の活性化、雇用の確保等)	山形大学や東北芸術工科大学、山形県産業技術短期大学校等との連携で、イベント等を開催していますが、更に、県内工業高校との連携強化に努め、展示やイベント等を実施しました。今後は、コロナ禍で少なくなったボランティアの募集や、団体や企業へ協賛事業の実施を呼びかけ、活性化していきます。	評価	<評価の理由> ・県内の様々な機関と連携している他、他県の旅行会社に周知を行うなど、様々な方法で地域の活性化に努めている。
総合的な評価	・包括協定書、年度協定書に沿った管理運營業務を行い、利用者のニーズに応じた展示やイベントを開催することで、産業科学館の魅力向上や利用促進に貢献している。 ・施設の老朽化が進み、維持管理の負担が大きくなってきている中、設置者である県と協力し、適切な管理や設備更新に努めている。		

【評価指標】

- A : 仕様書等に定める水準を上回っている等、優れた対応がなされている。
 B : 概ね適正に実施されている。
 C : 部分的に改善等を要するところがあるが、既に対応済み又は対応見込みである。
 D : 仕様書等に定める水準に達しておらず、大いに改善を行う必要がある。

注) 検証項目については、施設の特性等に応じて適宜追加することができるものであること。